

京都・長岡京跡



(京都西南部)

当調査地は左京四条三坊四町の推定地にあたる。この周辺では、既に数次の調査を実施しており、長岡京期の建物や井戸、それに条坊に関する溝や道路などの遺構を検出している。中でも一九八五年～八七年にかけて調査地北方の三町内で実施した調査では、石敷を有する建物や、焼土壇、井戸などをまとまった状態で検出しており、現存の「西川原寺」、「東川原寺」など

- 1 所在地 京都市伏見区羽東師菱川町
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)一〇月
- 3 発掘機関 勅京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 長宗繁一・鈴木廣司・吉崎 伸
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 八世紀末
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

の小字名から、遺構を「川原寺」に関するものと推測している。

今回の調査では柱穴や溝を少数検出したにすぎないが、調査区全体に三町内でみられたような焼け灰や焼土層の散布が認められ、川原寺の寺域内である可能性を示している。また、調査区の南端には、北西から南東方向に向かう幅約一〇m、深さ一mの溝を検出した。溝には腐植土層が厚く堆積しており、ここから木簡二点や、底部裏面に「大」「大山」と墨書のある土師皿、人面墨書土器が出土している。他にも土師器・須恵器・黒色土器などの土器類や、木沓・匙形木製品・檜扇などの豊富な木製品が出土している。

8 木簡の积文・内容

(1) 〔甥甥カ〕

・子信

(61)×(10)×3 081

(2) 〔□□□□〕

146×16×7 061

(1)は、薄い板材を用いており、下端部以外は欠損している。墨書は明瞭に残っており、習書の一部であるらしい。

(2)は、上半部を細かく削って調整するが判読不能。

9 関係文献

京都市埋蔵文化研究所「左京四条三坊」(『長岡京跡・大蔵遺跡発掘調査概報』一九八九年)

(吉崎 伸)